

アーバンデータチャレンジ2018

和歌山ローカルナレッジ

《様々な活動主体による地域情報化》

地域を知り、共有すれば、心が動く。

上仲 輝幸

株式会社 紀伊民報 マルチメディア事業部

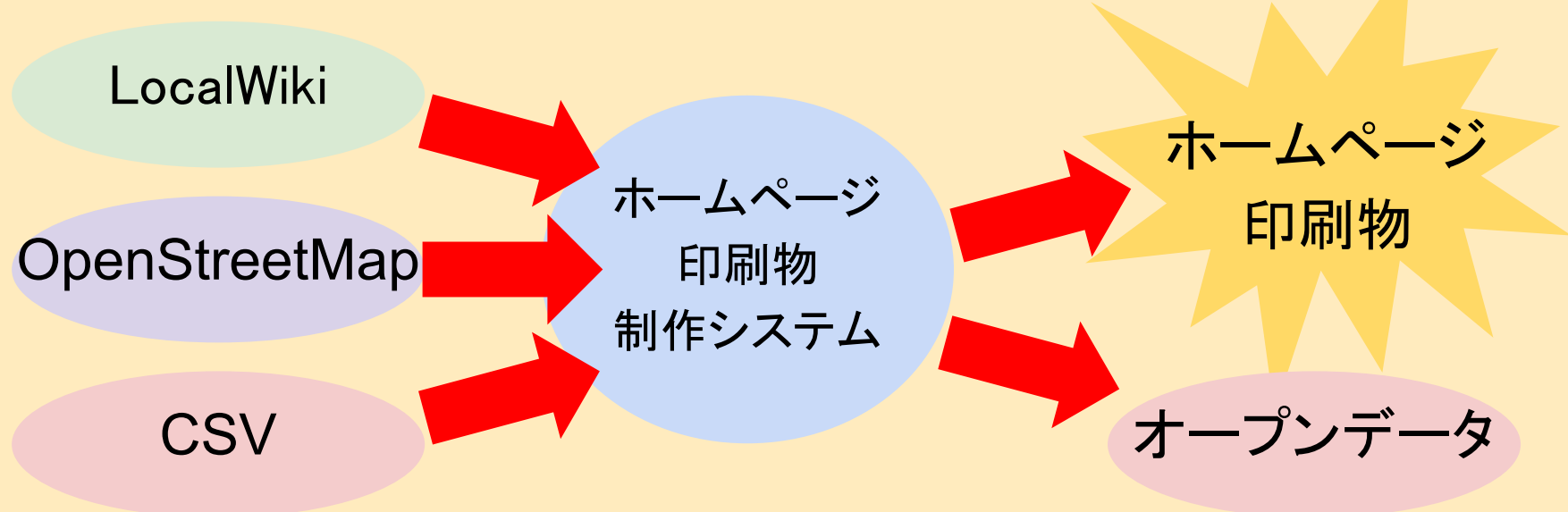
〒646-8660 和歌山県田辺市秋津町100

TEL.0739-26-7171 FAX.0739-81-7181

e-mail:t-kmnk@agara.co.jp

和歌山ローカルナレッジとは

- 和歌山県におけるオープンデータの取り組みと、和歌山大学がきっかけで広がったLocalWikiやOSMを活用した、マッピングパーティーやシビックテックの活動。
- 自治体や学校、さまざまな組織や企業、住民などが連携して、地域の歴史や文化、地理、産業、観光資源などを集約し、共有財産とする。
- 紀伊民報のホームページ更新システム「eメイド」を通して、WEBサイトや印刷物で見える化。ソーシャルメディアなどを活用し、情報流通の促進をする。
- さまざまな立場や多世代との交流活動を通じて、情報を共有し、地域課題の解決に取り組み、昔を知り、今に合った地域コミュニティの再構築が最大の目的。



ホームページ更新システム「eメイド」

- eメイドは、ホームページや印刷物を制作する紀伊民報のシステム。
- さまざまAPIのサービスや、CSVからもインプットとアウトプットが可能。

和歌山ローカルナレッジでは、下記を使用して、情報流通の促進を図る

- LocalWikiからAPIで情報を取得し、WEBサイトや印刷物を生成する仕組み
- CSVデータから、WEBサイトを生成する仕組み

CC BYライセンス
(二次利用、再配布が自由)

WEBサイト



印刷物 (PDF)



アーバンデータチャレンジ2018の活動紹介



UDC和歌山実行委員会では、**継続した活動を原則**とした、
下記**2つの取り組み**をして作品を作った。

- 450年余りの歴史をもつ田辺祭を情報化

【和歌山大学主体】

- 串本古座高校CGS部 防災（避難場所）マップ作り

【上仲（紀伊民報）主体】

リンク集：<http://wlk.civic.style/udc2018/>

「田辺祭を世界に発信！」～OSMとLoacalWikiを活用した、地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業～

【活動内容】

450年余りの歴史をもつ田辺祭に、和歌山大学生と地元の高校2校が参加。

住民らの手伝いをしながら祭りの歴史や行事などを調べ、LocalWikiとOSMにまとめる。

本活動の成果は、紀伊民報が開発したLoacalWikiやOSMにあるデータを、APIを使ってWebサイトや印刷物に出力するシステムを使って、UDC提出作品とする。

【目的】

活動を通して、持続可能な社会を担うリーダーの育成を行うとともに、その成果を通じて地元愛の醸成を行うことが主たる目的。



「田辺祭を世界に発信！」～OSMとLocalWikiを活用した、地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業～

【開催日時・場所】

2018/7/24・25 田辺市街地

【報告会】

2018/11/23 和歌山県立情報交流センターBig・U

【主催・共催・後援】

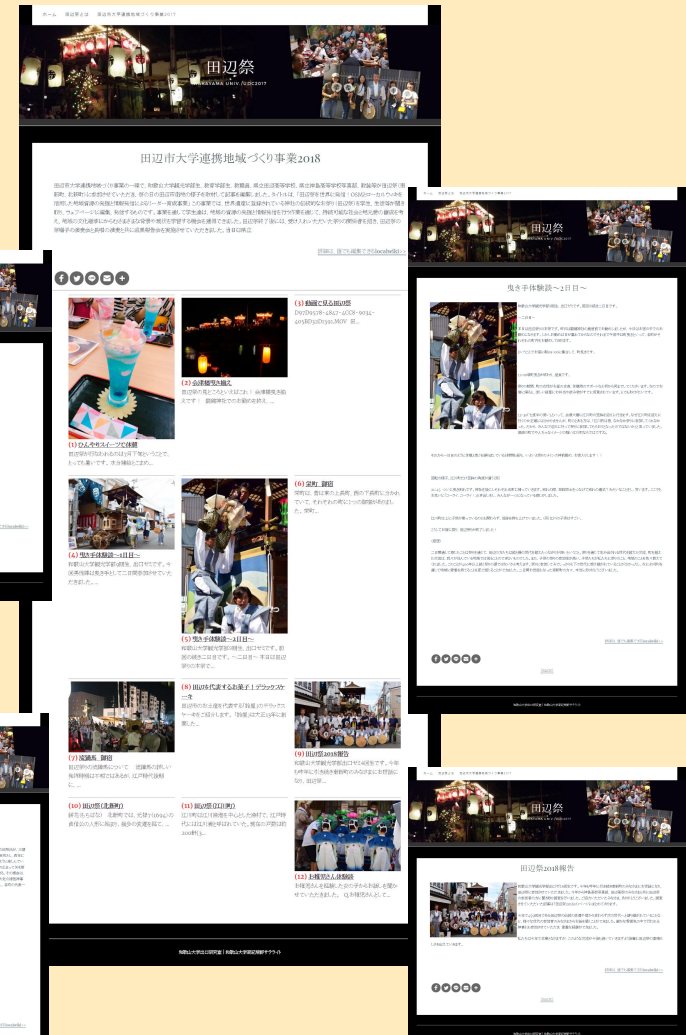
主催：和歌山大学出口研究室、
和歌山大学 南紀熊野サテライト
協力：UDC和歌山実行委員会

【参加者数】

40名：和歌山大学生6名、和歌山大学教職員4名、
田辺高校2名、神島高校20名、
高校教諭2名、広報協力6名

【ホームページ】

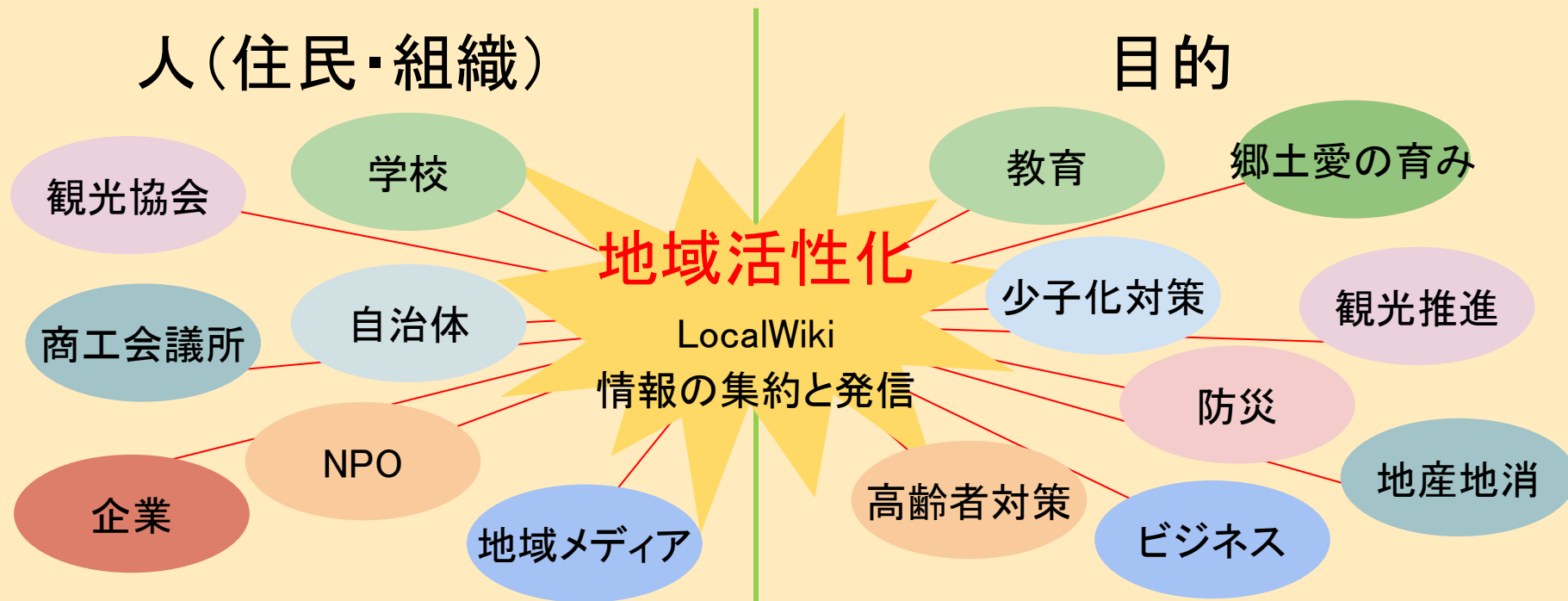
<http://wutm.civic.style>



目的は違っても、共通の取り組み

地域活性化という共通の目的があっても、それぞれの状況や立場によって、

目的は異なる。



LocalWikiを活用することで、それぞれの目的を達成

和歌山ローカルナレッジが考えるシビックテック

- 人と情報をつなぐ
- 情報と情報をつなぐ
- 人と人をつなぐ

情報を共有すれば、心が動く

和歌山ローカルナレッジが考えるシビックテックは、
技術の前に「**つなぐ**」ことがスタートライン。